

## スペイン 今年のカキは病害虫が大きな脅威

[FreshPlaza 2024年9月26日](#)

スペインのロホ・ブリランテ品種のカキの出荷シーズンは既に始まっている。第39週から第40週(9月末から10月初頭)には、ほとんどの業者がカキを販売していると予想されるが、まだ数量は限られる。

スペイン・カキ協会のパスクアル・プラッツ会長は、「先週、最初のロホ・ブリランテ品種のカキが一部の早い農場で収穫され始め、現在は最高の色の果実だけが収穫されている。来週には、民間業者の約80%が販売を開始すると予想している」と話す。(以下「」は同氏の発言)

「できるだけ早く出荷を開始してシーズンを延長するのは興味深いことかも知れないが、未熟な果実の販売は消費者に害を及ぼすため、最低限の品質基準を満たしている場合に限られる。例年どおり、出荷シーズンの最初の15~20日間は供給が限られるため価格がかなり高くなる。より多くの量が出回るようになれば、価格は下がる。」

乾燥した天候のため、昨シーズンよりも果実が小さい。これまでのところ天候上の問題がないため、30万トン超の当初見通しは変わらない。しかし、同会長は、「今年はカイガラムシなどの害虫がカキに大きな脅威をもたらすだろう」と警告し、「このセクターは、これらの脅威に対処するためのリソースがますます少なくなっている。我々の推定によると、カイガラムシは今年、生産量を約10%減少させる可能性がある」と嘆く。

過去6年間でスペインのカキ栽培面積は約20%減少し、現在のカキの生産力は34~35万トンに低下している。それでも、この国は依然としてヨーロッパで突出して最大のカキの生産国であり、輸出国である。「イタリア、ギリシャ、トルコでは生産量が増加しているが、彼らはまだ我が国にとって重大な競争相手ではない。」

## 中南米 バナナの病害との世界的な闘いを世界銀行が支援

[FreshPlaza 2024年9月26日](#)

世界銀行は、「対フザリウム菌熱帯株4グローバル・アライアンス」への支援を拡大した。これは、世界的に重要な食料源であるバナナを危険にさらす病害との闘いに取り組む国際的な取り組みである。この協力は、世界中の小規模農家の生活と食料安全保障に大きな影響を与えるこの病気の蔓延を抑制することを目的としている。

フザリウム菌熱帯株4(TR4)が引き起こすこの病害は、栄養ニーズをバナナに大きく依存している人々にとって不可欠なバナナ産業を脅かしており、コロンビア、ペルー、ベネズエラ等数カ国に広がっている。

米州農業協力研究所(IICA)がパナマで開催した会議では、世界銀行、国際金融公社(IFC)、及びバナナセクターのさまざまな関係者との議論が促進された。参加者は、生産者団体、バナナのサプライチェーンに関わる企業、研究者、IICAの関係者などであった。

世界銀行は会議の中で、特に主要なバナナ輸出国であるエクアドルでのパイロットプロジェクトを通じ、同アライアンスの取り組みを支援する意思を表明した。このプロジェクトは、新しいバナナ品種の開発、小規模農家の支援、バイオセキュリティシステムの実装、植物病理研究の実施、及び政府の関与に焦点を当てる。

同アライアンスは既に、予防、訓練、抵抗性品種の栽培、防除手法及び政策支援の分野で成果を上げている。生産方法の革新と、TR4耐性遺伝子の同定等の重要な科学的進歩が強調された。

世界銀行のアグリビジネス首席専門家であるクリストファー・イアン・ブレット氏は、小規模農家を支援し、農業食料セクターの公共財とサービスを強化するために用意された幅広い事業項目があることを指摘し、世界銀行が農業セクターに関わっていくことを強調した。

出典: [Caribbean News Service](#)